

コロナが変える私たちの活動

新型コロナウイルスの感染拡大で私たちの暮らしや働き方は大きく変わらざるを得なくなりました。同じ場に集い、顔を合わせたコミュニ



自治体改善マネジメント研究会事務局長・鈴木一博
(横浜市総務局人事部長)

本連載は「自治体改善マネジメント研究会」のメンバーが執筆しています。同研究会は自治体で改善運動を推進してきた職員と行政経営デザイナー元吉由紀子が共同で設立。実践事例情報を収集、分析し、ナレッジ化して情報発信している。2017年にNPO法人化。ホームページ、Facebook「自治体改善の輪」を運営。

第30回 新型コロナに 立ち向かおう!

オンラインで行うこととした。

思いつきから始まった

かねてから会員が参加しやすい場づくりやコミュニケーションが課題だったので、昨年、私は「こ

会では昨年からオンライン会議を試行していたが、当面の会議等をすべてオンラインに変えた。5月の定期総会もオンラインで行い、事業計画に盛り込んだ、新事業の「チーム経営研究会」も当面はオ

の指とまれ！」という事業を思いつきでやってみた。特定のテーマを設け、これに関心のある会員が集まって情報交換や意見交換をするもので、この時は、私が大阪へ出向き、関西・中部地区の会員に集まってもらい、人事をテーマに大いに語り合うことができた。

今回は、感染症が拡大し、自治体職員である会員が住民や事業者に対する支援などの対応に入る中、「この指とまれ！新型コロナに立ち向かおう」と銘打ち、毎週日曜日の朝、各自治体の現場の変化や対応状況を持ちよることにした。形式的な報告は抜きに、言葉で伝え合うようにした。4〜5月に7回行い、各回10人程度が参加した。

自治体によって感染状況やその対策、住民、事業者に対する支援は異なる。参加者から様々な情報を聞くことができ、業務上の苦労や愚痴も聞かれた。途中退場して仕事に向かう者もいた。各自治体で職場の環境を踏まえ様々な形でテレワークなどの対応をしている様子がわかり、人事を担当する私にとっては大変参考になった。

得られたもの、活かしたいもの

この試みは、もともとコロナ対策としての解決策を期待するものではなかったが、情報のほかに幾つかの気づきが得られた。

- ① 多忙を極め、緊張感のある業務に日々臨んでいるメンバーにとって、オンラインのため、マスクをせずに顔を合わせてコミュニケーションを取れることが、ひと時の息抜きになり、思いのほか会員間のつながりが強く感じられた。
- ② 回数を重ねることでオンライン会議システムの使い方や、やりとりのコツを体得することができた。
- ③ オンラインに対する抵抗感がなくなり、対面と併せて手段として活用できる実感を得た。

この原稿を書いている今、オフイスには多くの人が戻り、通勤電車も3密状態となった。そして感染者が再び増加している。「元には戻らない」。半信半疑だったが、新しい日常は、すでに現実となっているところがある。一方で、コロナがこれまでできるにもかかわらずやろうとしなかった新たな試みの背中を押している。感染が収束し、再び対面でやりとりできる日が早く来ることを願いつつ、この機会を大切に生かしていきたい。